

堀内三郎

(関西大学教授・京都大学名誉教授)

今や世を挙げて「情報化の時代」といわれ、「電算機がなければ夜も日も明けない」という程の世相である。情報の重要なことは今に始まった事ではない。たとえば戦国時代の武将は忍者を活用して敵よりも早く情報を手に入れた方が必ず勝ったと言われる。戦後の占領軍係官から、英語では「消防」を「Fire-fighting」というと聞かされた時は一寸変な気がしたが、考えてみると確かに消防は火と戦っているわけである。ところで、火災から人命と財貨を守る戦い的手段としては、第1に耐火造建物のように燃えない材料で火熱をふさぎ、その中の人や物を守る建築的方法と、第2に注水や破壊などにより火熱を鎮火させて人命などを助けるという消防的方法とがあることはよく知られているとおりにある。しかし筆者がここで強調したいのは第3の方法ともいうべき「早期発見」という情報的方法の有効性と重要性についてである。もし仮に、火災をその極めて初期に正確に発見できる方法が確立されたとしたならば、少量の注水でも容易に消火できるし、又その場からの人々の避難も確実に行われ、人命の損失は皆無に近づける事ができるであろう。もちろん、このように「早期発見」の有効で重要なことはずっと昔から判っていた事であり、その為の具体的対策として各種の感知器等の火災報知設備が研究開発されていることも衆知のとおりである。にもかかわらず、筆者がここで事新しくこの点を強調しているのは、冒頭に述べたような情報化の時代といわれる「情報関係技術の進歩」という最近の状況を踏まえての大きな期待があるからである。大きな話でいえば、宇宙戦争といわれる物騒な計画では、何万分の一秒という程の精度で早く敵のミサイルを見つけることに莫大な投資が行われようとしているらしいし、又ロボットの眼は機械の異常を素早く捉らえる能力を備えているといわれる。それほど情報に関する科学技術の進歩が著しいのであれば、火災の発見などはそれほど困難ではないのではなからうか。そんな利益にならない分野に誰が投資などするものかなどと速断してはなるまい。もし筆者の期待するような万全の早期発見手段が開発されたならば、前記の第1の建築的方法や第2の消防的方法への投資が大幅に節減され、人命の安全という究極の目的達成に要する総合的投資は逆に少なく済むことになるかも知れないからである。もしそうなれば、例えば文化的価値の高い木造建物の町並保存も容易となろうし、又大地震火災対策においても大規模な消火や避難が不要という事態が生ずる可能性も出てくるであろう。防火に関する情報的分野の研究開発への筆者の期待は限りなく膨らむばかりである。